

様式第3号(第12条関係)

審議会等の会議の記録

会議の名称	伊勢崎市環境審議会(令和7年度第2回伊勢崎市環境審議会)
開催日時	令和7年11月10日(月)午前10時00分～午前11時20分
開催場所	市役所東館3階災害対策室
出席者氏名	<p>(委員10名) 高橋委員、松浦委員、江原委員、須永委員、矢内委員、南雲委員、福元委員、大屋委員、金子委員、斎藤委員 ※欠席者:岡安委員、峯岸委員、塩島委員、角田委員、神戸委員 (事務局9名) 小林環境部長、塩島環境部副部長 環境政策課 小保方課長、輿石係長、斎藤主任 GX推進課 小此木課長、桑名課長補佐兼いせさき GX推進係長、谷川主査、久保主査 (計画策定委託業者:八千代エンジニアリング株式会社) 久我氏、平野氏、杉山氏</p>
傍聴人数	なし
会議の議題	<p>(1) 第2次伊勢崎市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)の改定について (2) 今後の予定について</p>
会議資料の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・委員名簿 ・事務局名簿 ・資料1 第2次伊勢崎市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)について ・資料2 第2次伊勢崎市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)改定(案)
会議における議事の経過及び発言の要旨	<p>1. 開会</p> <p>2. 会長あいさつ</p> <p>3. 議題</p> <p><u>(1) 第2次伊勢崎市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)について</u></p> <p>事務局より資料1、2を用いて改定について説明。 ※説明について次のとおり質問・意見があった</p> <p>委員 5章以降は作成途中という認識で良いか。 事務局 その通りである。 委員 次回の資料には、目標設定や緩和策、適応策に関する内容を入れていただきたい。伊勢崎市は、日本で観測史上最高気温を出したため、この環境を</p>

会議の名称	伊勢崎市環境審議会(令和7年度第2回伊勢崎市環境審議会)
	見直し、そのうえで適応策について他市よりも詳細に検討いただきたい。住みやすく安全な町としなければ、移住もしたくなると思う。
委員	今世紀末には気温が2.8度上昇するため、早急に地球温暖化対策をしていかないといけない。地面に設置できる太陽光発電設備や、走るほどCO ₂ を減らす自動車等の最新技術を活用するなど検討していただきたい。
委員	審議会の委員は地球温暖化の専門家ではないが、自分事として取り組まないといけない。各委員が、地球温暖化に関して勉強したうえで、審議をするようにした方が良いのではないかと思ったが、いかがか。
委員	太陽光発電設備を山に作ると自然破壊につながる問題もある。ペロブスカイト太陽電池は壁や窓に設置できる。これにより土地を潰さなくても良いため、補助金を導入することで、将来的に利用できるのではないかと思っている。
委員	自動車依存、公共交通を使わない点が課題となっているが、交通を転換できるようなことが可能か。
事務局	CO ₂ 発生のない自動車や、公共交通、歩きやすいまちづくり等を推進していかなければならないと考えている。
委員	EVは市に2台しかないのか。
事務局	今年度増える見込みがあり、今後買い替えもしていく予定である。
委員	自動車依存や公共交通については、地球温暖化対策として避けられないと思っている。CO ₂ を排出する自動車を減らすように市として促す必要がある。また、公共交通は地球温暖化対策と併せて審議していく必要がある。ウォーカブルなまちづくりについて事務局は提案しづらいと思うが、暑くて歩けないような町とならないように、植樹等を検討しなければならない。環境審議会としても、議論していくべきだと考えている。
委員	専門知識がないため、脱炭素に関して委員も勉強していかないといけないと思ったが、いかがか。
	また、カーボンニュートラルを実現するためには、生活スタイルを変えないといけなくなると思っている。かつて田んぼだった箇所に工場を誘致しているが、二酸化炭素減らしていこうという方針はちぐはぐな印象を受ける。伊勢崎という、災害が少なく、交通網が良い特徴を考慮し、産業振興と脱炭素化を調整しながら考えていかないといけない。
委員	市の力だけでCO ₂ の削減はできないと思っているが、適応策については、自分たちの身を守るという点で積極的に進めていかないとならない。委員も勉強して、進めていく必要があると思っている。
委員	小学校に関わる仕事をしている。気温上昇で子供が外で活動できない、プールができない等、学習環境にも影響している。この点も考慮して検討いただきたい。

会議の名称	伊勢崎市環境審議会(令和7年度第2回伊勢崎市環境審議会)
委 員	農業分野に関して、市としてどのような対策を進めるか考えないといけない。営農型発電や転用型発電についても考えていく必要がある。
委 員	気温に関して、「産業革命前から何度上昇」ということがよく言われるため、計画でもさらに過去から遡り、これと比較する必要がある。
	再生可能エネルギーポテンシャルに関して、電気(GWh)を熱(GJ)換算して示してほしい。
委 員	ブルーカーボンの可能性についても検討いただきたい。
委 員	産業部門に関しては、企業と連携しつつ進めないといけないと思っている。市としては、企業との取り組みは何を考えているのか。
事務局	エネルギー診断の推進等が考えられるが、詳細は次回審議会にて提示する。
委 員	産業部門に関して、上場会社は事業活動の中で脱炭素化に関する要求が課され、取り組んでいる状況だと認識している。その一方で、中小企業に関しては市としてサポートをしないと脱炭素への取組は進まない。自力で取り組める企業とそうでない企業をはっきり区分けして、市として進めて行かないといけない。運輸部門に関しても同様である。
委 員	小学生の子供がおり、夏は日傘で登校させているが、今後歩いて登校できるのかという不安があるため、適応策についてご検討いただきたい。
	また、家庭用脱炭素化設備導入補助金について概要を伺いたい。
事務局	令和6年度から始まった補助金である。太陽光発電設備及び蓄電池を新規で設置した方を対象にそれぞれ上限5万円で交付している。金額設定は他市と同等程度である。
委 員	この補助金を活用したが、設置に多額の費用がかかるため、「これがあるから太陽光を入れよう」という気持ちにはならなかった。補助金としてはありがたいが、太陽光発電設備を増やすための施策にはならないのではないかと思った。
委 員	現状、エネルギーに関する補助が載っているが、省エネ設備への補助についても載せてアピールすると良いのではないかと思っている。事務局の担当以外の領域も記載しても良いのではないか。
委 員	家庭部門からのCO ₂ 排出量が2020年度から増えている。各家庭については、やればできるものなので啓蒙活動が大事なのではないか。
事務局	家庭部門からのCO ₂ 排出量に関して、2020年度はコロナによって減少していると考えられるが、その後は増えてきている状況である。
委 員	増加の要因として、家庭からのゴミの排出量増加が考えられるのではないか。
事務局	その可能性も考えられるため、施策として打ち出したい。
委 員	家庭部門における温室効果ガスが増えている要因を明確化したうえで対

会議の名称	伊勢崎市環境審議会(令和7年度第2回伊勢崎市環境審議会)
	<p>策をする必要がある。例えば、電力消費によるものか、燃料消費によるものか等の分析が必要ではないか。</p> <p>委 員 森林吸収について、どのように考えればよいか。</p> <p>委託業者 森林蓄積の変化量によって算出している。県の森林統計をもとに按分をしつつ計算している。</p> <p>委 員 家庭で育てられている植物は含まれていないのか。</p> <p>委託業者 その通りである。</p> <p><u>(2) 今後の予定について</u></p> <p>審議会は全3回を想定、気候変動についても併せて今後提示すること、第3回までにパブリックコメントを実施する予定であることを事務局より説明。</p> <p>※説明について次のとおり質問があった</p> <p>委 員 審議会で答申ができる状態となることが理想だが、その状態にならなかつた場合どうするのかを考えた方が良いのではないか。また、パブリックコメントの実施時期はいつか。</p> <p>事務局 パブリックコメントは2月中に実施し、その結果をまとめたものを3月の審議会で審議していただく想定。</p> <p>委 員 3月の審議会後に答申を出して、3月末付で計画は発行ということで良いか。</p> <p>事務局 その認識で良い。</p> <p>委 員 群馬県や近隣自治体の事例について共有いただきて、委員が勉強するような体制ができればと思うが、いかがか。</p> <p>委 員 そうしていただけるとありがたい。</p> <p>事務局 庁内でも調整して、実施できるようにしたい。</p> <p>4. 閉会</p>